

かざはりいせき
風張遺跡 現地説明会の資料

(財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

1 調査の概要

- ・遺跡名：風張遺跡
- ・調査場所：飯田市^{かみひさかた}上久堅3, 841 番地ほか
- ・調査原因：国土交通省飯田国道事務所による国道 474 号飯喬道路建設工事^{いいたか}
- ・調査期間：平成 24 年 4 月 16 日～7 月 31 日 (予定)
- ・調査面積：14, 680 m²
- ・検出遺構：中世：掘立柱建物跡、竪穴建物跡、土坑、溝跡、焼土跡ほか
 江戸時代：掘立柱建物跡、土坑、溝跡、焼土跡ほか

2 風張遺跡の位置と地形

風張遺跡は、天竜川にかかる水神橋（松尾地籍と下久堅地区を結ぶ橋）から 6km ほど東にある上久堅地区^{かみひさかた}に所在します。神之峯城跡^{すいじんぼし}の北東側を流れる細田川^{ほそだがわ}の対岸にある丘陵上に風張遺跡は立地し、昨年度の確認調査（トレンチ調査）では、中世以降と考えられる柱穴跡や溝跡などが見つかり、さらに、遺構の集中する箇所と希薄な箇所があることなどもわかりました。

上久堅地区にある神之峯城跡は、室町～戦国時代に天竜川以東を治めた在地国人^{ざいちこくじん}の知久氏の本城です。山頂の本丸跡にはNHKの電波塔が立っており、「かんのみね」の呼称で多くの飯田市民の皆さんに親しまれている山です。また、風張遺跡の北側に広がる扇状地上には、昨年度調査した鬼釜遺跡及び鬼釜古墳が立地します。



写真 1 風張遺跡全景（北西から上久堅小学校方向を臨む。●は江戸時代の秋葉みち）

3 調査の成果

■発掘で見つかった遺構（概要）

調査では、中世の遺構と江戸時代の遺構が見つかりました。これら遺構の分布を見ると、尾根部（南西尾根部・北東尾根部）と谷部（中央谷部）にそれぞれ集中する傾向があり、中世の遺構は尾根部と谷部、江戸時代の遺構は尾根部に分布します。調査区内は南東方向から北西方向に緩やかに傾斜していますので、中世と江戸時代とも、掘立柱建物跡を構築する際に、切土・盛土（造成）で平坦地をつくり出していることがわかりました。江戸時代の建物跡のなかには、中世の建物跡と近接、もしくは重複するものがあります。このことから、江戸時代においては、中世に形成された平坦地をある程度利用して建物が構築されていたと推測されます。

■江戸時代の屋敷地

北東尾根部で見つかった4間×4間（約8m×8m）の大型掘立柱建物跡（ST01）は、柱穴の配置から、南東側に入口と土間が想定される建物です。建物跡の内部では、いろり跡と思われる焼土跡が複数確認されています（写真3）。ST01の柱穴に埋まる土から、キセルが出土していることから、江戸時代の建物跡と推定しています。ST01は建物の規模・構造から、有力な農民の住居（母屋）だったと想像されます。



写真2 近世の掘立柱建物跡（ST01）

ST01の約6m南西側には、かわや（便所）と思われる穴（SK28、写真4）や、さらに約1m南西側には、屋敷地を区画したと思われる溝跡（SD06）があります。



写真3 建物跡内の焼土跡（いろり跡）

■中世の屋敷地

中世の建物跡は、江戸時代の建物と異なり、柱穴が深く、柱の跡はよく残っていました。柱穴に埋まる土からは、15世紀後半～16世紀初頭に岐阜県の瀬戸・美濃地方で焼かれた陶磁器が出土しました。

神之峯城への知久氏の入城時期と廃城時期を記載した中世の文献史料は確認されていませんが、中世史の研究者によると、知久氏は16世紀初頭頃に神之峯城に入り、城は16世紀末頃に廃城となったようです。風張遺跡の建物跡の時期は、中世後半（16世紀）の可能性が高いため、その推測からすると、建物跡と神之峯城の存続期間と重なります。今回見つかった建物跡は、知久氏もしくは知久氏家臣が構築した屋敷地と考えることができるのではないのでしょうか。



写真4 「かわや」と推定される遺構の断面

4 発掘遺構に関連する資料等

・絵図

貞享4年(1687年)に野池村(現飯田市千代)・柏原村(現飯田市上久堅・下久堅)・知久平村山分(現飯田市下久堅)の間で山林原野の用益(使用と用益)をめぐる紛争(山論)が発生しました。その際に作成された絵図が「野池山山論図」です。

この絵図を見ると、風張遺跡内に建物が確認されます。今回発掘した建物跡が描かれているのではないのでしょうか。

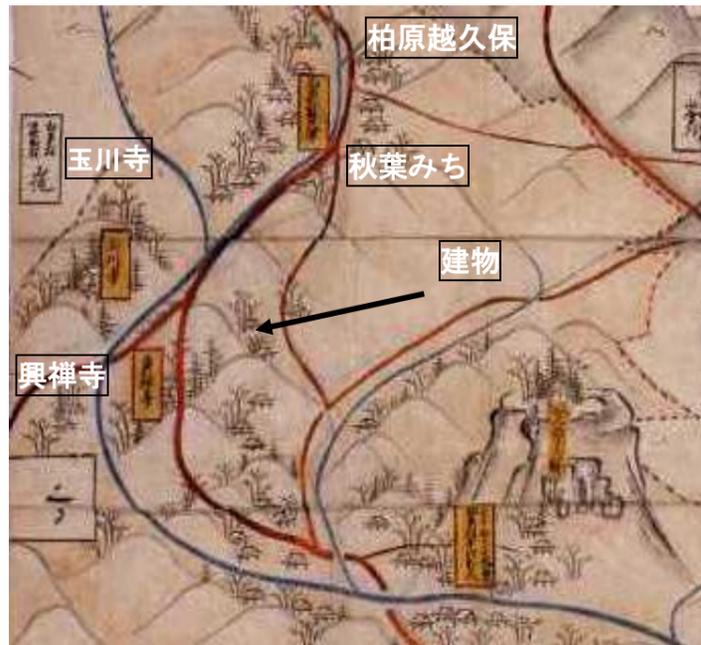


図1 「野池山山論図」に加筆
(飯田市下久堅宮井氏所蔵、飯田市歴史研究所複製)

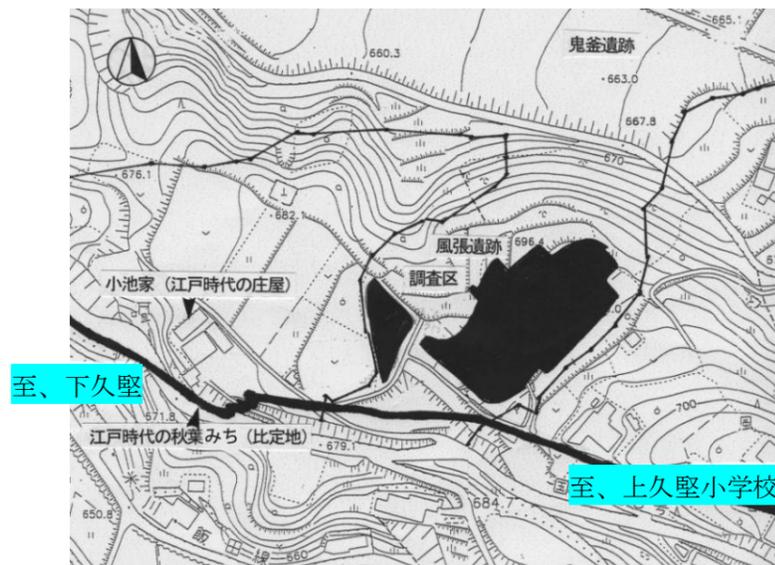


図2 風張遺跡調査区と江戸時代の秋葉みち(比定地)
(秋葉みちの場所は、小池茂彦氏・岡田正彦氏の教示による)

・交通路・庄屋

江戸時代の交通路には、飯田市八幡で遠州街道から分岐して天竜川を渡り、飯田市下久堅・上久堅、小川路峠・青崩峠を経て駿河(静岡県)の秋葉山山頂(秋葉神社)に向かう道、秋葉みちがあります。この秋葉みちは調査区の南側を通っていることから、今回調査した建物跡は、交通路に近接する場所につくられたものと理解できます。

また、調査区の約60m西方(風張遺跡内)には、江戸時代に柏原村(現飯田市上久堅)の庄屋を務めた小池家があります(図2)。江戸時代の小池家は現在地にはなく、現在地の近くにあったようです。もしかしたら、ST01は江戸時代の小池家(庄屋)の建物ではないのでしょうか。

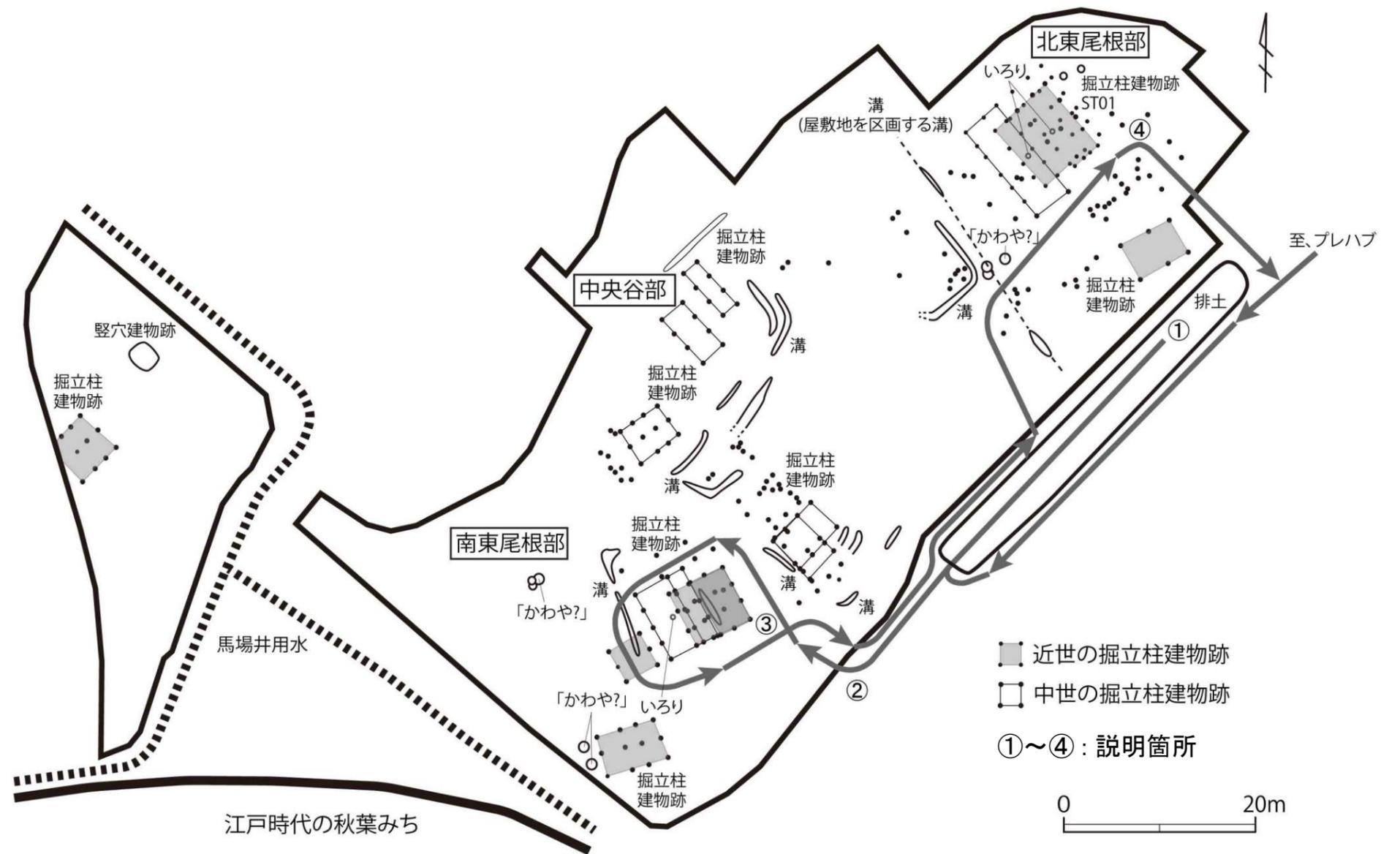


図3 風張遺跡 遺構分布概略図